

令和7年3月12日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立月光原小学校
校長 岩前 真

令和6年度 目黒区立月光原小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和7年1月17日(金) 午前11時30分～午後1時00分
 - ・令和6年度の学校評価について

2 参加者

校長、副校長、小林光男様、高柳由美様、井上佳代子様

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◐(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◐「子どもたちの学校での様子」についての保護者の肯定的評価は昨年度同様93%、「教職員の児童、保護者への接し方」については88%から92%に上昇する等、学校の雰囲気に対する評価は良好である。これは学級経営の安定が大きく影響していると考えられる。 児童の評価も概ね良好だが、「学校は楽しいか」という項目に対する低学年児童の肯定的評価は75%であり、昨年度と比べて11ポイント下がっている。これは、多様な背景をもった児童が増えており、決められたカリキュラムに則って学ぶ、時間を見て動く、集団生活をするといったこ	・今後も、児童が安心して学校生活を送り、困ったときには気軽に相談できる環境づくりに努める。そのためには、全ての学級において、担任と児童の信頼関係を築き、落ち着いた学級経営を行うことが何より重要である。 ・低学年での副担任制や、高学年での一部教科担任制、各学年での合同授業などの取組を次年度も積極的に取り入れ、複数の教員で児童を育てていく。さらに、養護教諭やスクールカウンセラー等が日常的に関わることで、児童が担任以外にも相談できる環境を整える。 ・特別支援教室の巡回教員や巡回心理士、スクールカウンセラー等と連携し、保護者との連携のあり方、合理	・今の教育現場では、健全な学校運営を進めるに当たり、教職員に欠員を出さないようにすることがいかに大切かということがよく分かった。 ・時代的背景、社会の変化、授業時数等、様々なことを鑑みて、学校の教育活動の見直しを図っていくことは致し方ないことである。ただ、見直しの中で、地域性についても可能な限り配慮していただきたい。保護者・地域に対しては、地道に現状を伝えながら、理解を求めていくしかない。

	<p>とに対して抵抗感をもつ児童が年々増えていることが起因していると推察する。</p> <p>「学校の教育活動に対する満足感」については、保護者からは81%の肯定的評価を得たが、昨年度の86%からは5ポイント下降した。行事のアンケート等を見ると、今年度の運動会を午前みの開催としたこと、そのために競技内容も見直したことに對して、一部否定的な意見が見られた。</p>	<p>的配慮の提供も含め、特別な支援を要する児童への適切な指導・支援を進める。</p> <p>・学校行事の見直しは今後も必要なことであるため、次年度は児童・保護者・地域の理解を得られるよう、より丁寧に説明をしていく。</p>	
<p>II 教育目標について</p> <p>・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎保護者の肯定的評価は昨年度同様83%であり、教員については85%から100%へと大きく上昇した。昨年度は学級経営や子どもたちの友達関係に課題が見られたため、教育目標の「心豊かですなおな子」を今年度の重点項目としたことは、適切だったと考えられる。</p>	<p>・次年度は、教育目標の重点項目を「すすんで学習する子」とし、その背景や理由を、年度当初に保護者に周知する。</p> <p>また、教育目標や学校経営方針を具現化するために、実際の教育活動がどのように展開されているかについて、学校だよりや学校ホームページ等で適時伝えていく。</p>	<p>・学校だよりや学校ホームページ等で、子どもたちの学習する様子を積極的に発信していただきたい。</p>
<p>III 心の教育について</p> <p>・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎「自分と友達の命を大切にすることや思いやりの心をもつ」ことについては、保護者の肯定的評価は81%から87%へ、教員については85%から100%へと大きく上昇した。いじめが疑われる案件に対して、初期段階か</p>	<p>・次年度も、各学級の安定を重点とし、「総合質問紙調査」(i-check)による結果を分析し、学校・学級経営の改善等に積極的に生かしていく。</p> <p>・「全職員で全児童を見守り育てる」という基本方針を引き続き徹底する。</p>	<p>・特になし</p>

	<p>ら教員間での情報共有をし、「学校いじめ対策委員会」を開いて組織的に対応に当たった成果と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ防止基本方針」及びいじめ防止のための取組（いじめに関するアンケートの実施、SOSの出し方や悩み相談に関する指導等）について、保護者や地域にも周知する。 	
<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎「学力の定着・向上に向けた授業の実施」に対する保護者の肯定的評価が 75%から 86%へと、昨年度と比べて10ポイント以上上昇した。同時に「ICT活用による分かりやすい授業の実施」に対する評価も 79%から 87%へと8ポイント上昇している。</p> <p>これは、学級経営の安定やそれに伴う少人数指導の維持、昨年度の12月より各教室に設置された電子黒板を活用した授業の実施が大きく影響していると推察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5、6年生は一部教科担任制を、その他の学年でも合同授業や交換授業を実施し、教員の教科指導の専門性と授業の質の向上を目指す。 ・導入の工夫、発問の精選、視覚的資料の工夫、他者との関わりや対話の重視等により、児童の学習意欲を喚起し、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ・ねらいを明確にし、学習計画を児童と共有した授業を実践することで、知識・技能の確実な習得と個に応じた指導の充実を図る。また、学習過程や学習形態の工夫をし、単元内自由進度学習を取り入れることで、指導の個別化を図り、学びに向かう力等を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎「子どもの体力向上や健康の促進への取組」に対する保護者の肯定的評価は、88%から96%と8ポイント上昇している。今年度は、校庭改修で校庭使用ができなかった時期が2か月近くあったが、新しい人工芝に貼り換えら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツタイムの一層の充実を図り、児童がさらに主体的・意欲的に参加できるようにする。 ・学校健康トレーナーを積極的に活用し、中休みに定期的に自由参加のリズム体操を実施することで、運動の日常化を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

	<p>れて運動環境が良くなったことも影響していると考える。</p> <p>一方、「学校で運動したり健康に気を付けたりして生活しているか」という項目に対する高学年児童の肯定的評価は72%にとどまり、昨年度より10ポイント下がった。これは、校庭改修のみならず、たび重なる熱中症警戒アラートの発表により屋外で運動できない期間が増えたことも大きく影響していると考えられる。</p>		
<p>VI 特別活動について</p> <p>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて</p>	<p>◎「学校行事や児童会活動、クラブ活動の活性化」に対する保護者の肯定的評価は、86%から94%と8ポイント上昇した。今年度は開校90周年の年であり、90周年にちなんだイベントが多かったことも大きく影響していると考ええる。また、クラブ活動で、児童の意見を吸い上げた「推し活クラブ」「あそびクラブ」が設置されたことも、今年度の新しい試みであり、高評価につながったと推察する。</p>	<p>・次年度は、学校行事を大きく見直していく必要があるため、今年度と同様にはいかないことも多く予想される。</p> <p>児童にとってのより良い学校生活を目指し、今年度のクラブ活動のように工夫できるところは工夫しつつ、一方で、見直しが必要なものについては、児童・保護者・地域の理解を得られるように、丁寧に説明していく。</p>	<p>・特になし</p>

<p>Ⅶ 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<p>◎「子どもたちが落ち着いた学校生活を送っている」という項目に対する保護者の肯定的評価は、68%から83%へと、昨年度より15ポイント上昇した。これは、学級経営、専科経営の安定が大きく影響している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業が成立しないような場面は見られなくなったが、これは学級経営、専科経営次第のため、常に教員の指導力を向上させていく必要がある。 学校の決まりについては最低限の決まりにすべく、再度見直しを行った。 不登校児童は昨年度に比べて人数は減ったものの、個人個人で背景や状況が大きく異なり、学校だけでは対応が難しいケースも増えており、外部の機関との連携がますます必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし
<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎保護者の肯定的評価は、86%から95%と大きく上昇した。児童も、自らの避難訓練への参加態度を高く評価しており、教職員もそれを褒め、認めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 性犯罪や性暴力対策としての「生命（いのち）の安全教育」を各学年で年1回実施する。 学校防災マニュアルや危機管理マニュアルについて、教職員間で共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国各地で災害が続き、児童も保護者も、ここ数年で意識が高まってきているのではないかと。
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校や同じ中学校区の小学校との連携について 近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎保護者の肯定的評価は、82%から96%と大きく上昇した。新しい取組が増えた訳ではないが、コロナ禍で止まっていた活動が、ここ2～3年で再開し、保護者にも小中連携教育の様子が十分理解されるようになってきたと考えられる。</p> <p>げっこうはらこども園との交流は、運動会や展覧会等でも見られるため、保護者にも理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第七中学校が統廃合で南中学校となることに伴い、小中連携は、南中学校、碑小学校、向原小学校、原町小学校と、これまで以上に多くの学校とともに考えていく必要がある。管理職、教務主任、生活指導主任で事前の打ち合わせを綿密に行い、新しいやり方を検討しながら実施する。 新しくなる小中連携や、新しく始まるスタートカリキュラム、架け橋プログラムについては、目的や具体 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度からの新しい取組に期待する。

	されやすいと考える。	的な取組について、保護者や地域に対して明確に発信していく。	
Ⅷ 情報の発信 ・学校の情報発信の充実について	◎保護者の肯定的評価の割合は92%と、良好である。今年度の途中から、学校だよりや学年だより、ボランティア募集のお知らせ、チラシ等を可能な限り紙媒体でなく、保護者連絡システム C4th Home & School による情報発信に切り替えたことで、連絡が迅速に伝わるようになった。 また、担任と保護者の連絡も、保護者連絡システム C4th Home & School の連絡帳機能の活用が進んだ。	・引き続き、学校ホームページの充実に努めるとともに、学習用情報端末を利用した写真の提供や動画の配信を積極的に行っていく。 ・保護者連絡システム C4th Home & School の機能を有効に使い、引き続き紙媒体での手紙配布を減らしていく。 ・引き続き、PTA活動の一環として、様々な教育活動において保護者ボランティアを募り、日常的に保護者が来校し、教育活動をサポートしながら直接学校の様子を参観できる機会を設定する。	・PTA活動が完全任意となって2年が経つが、状況はいかがか。一人一役をなくしたことで、実際のところ問題はないか。
Ⅸ 教員の人材育成について ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について	◎教員の肯定的評価は100%である。全員が自信をもって肯定している点は、評価できる。	・今回の結果に甘んじることなく、今後も日常的な取組を積み重ねていく。	・特になし
Ⅹ 教員の働き方改革について ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について	◎教員の95%が「組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる」と評価しており、昨年度と比べて20ポイントと大きく上昇した。これも、学級経営、専科経営が安定し、一人一人が本来担うべき仕事に力を注げたことが大きいと推察できる。また、校務分掌の枠	・学校経営において要となるのは、児童の日常を支える学級経営であり、専科経営である。今後も、学級経営及び専科経営の安定を図れるよう、人的配置の工夫や組織的な対応を心掛けていく。	・教員の笑顔を増やしていくこと、保護者との円滑なコミュニケーションが、学級や学年、学校の安定につながるのではないか。

	<p>を超えて、組織の中で助け合う場面も多く見られる等、職場の温かな雰囲気も大きな一助となっている。</p>		
<p>XI サービス事故の防止について</p> <p>・サービス事故防止に向けた取組などについて</p>	<p>◎教員の肯定的評価は100%である。全員が、「日頃からサービス事故防止に努めている」と明言できることは、率直に評価したい。</p>	<p>・今後も定期的に、サービスについて改めて確認したり、自分自身を見つめ直したりする機会を設定する。また、同僚に対して、気になったことを伝え合えるような職場づくりを推進する。</p>	<p>・特になし</p>